

教科 【 家庭 】

■生徒の状況

- ・タブレットの操作が身に付いてきている。
- ・実習や実験などに興味をもって取り組む生徒が多いが、授業に集中できない生徒もいる。
- ・宿題に対して主体的に取り組めていない。・ノートの活用が十分でない。

■指導における課題

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するための指導法の工夫。
- ・作業進度の差が出たときの対応。
- ・作業手順や、作業のポイントの指導の仕方。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・「めあて」と「まとめ」の運動：毎時間のめあてを身近な生活課題（例：持続可能な消費行動、家族との関わり方など）として設定し、授業のまとめに自己の生活と結びつけた振り返りを行うサイクルを徹底する。 ・生徒の実態に応じた課題の最適化（つまずきへの対応）：一律の作業手順や完成度を求めるのではなく、技能の習得に困難さを感じる生徒には、本来の手順よりも易しい縫い方（代替案）を指導する。生徒自身の技能レベルに合わせて課題のハードルを柔軟に調整することで、作業の停滞を防ぎ、すべての生徒が確かな達成感を得られるようにする。
視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	個別最適な学び：被服製作や調理実習において、教師の模範作業の動画や資料を用意し、生徒が端末を使って自分のペースで何度でも手順を確認・習得できるようにする。 協働的な学び：班ごとの献立作成や、住環境の工夫に関するアイデアなどを共有ボード上で可視化し、リアルタイムで他者の意見を取り入れながら相互評価を行う活動を取り入れる。
視点3 総合的な学習の時間との連携	SDGs・地域課題の探究：総合的な学習の時間で扱う「環境保護」や「防災」のテーマと連動させ、家庭科において「環境に配慮したエコッキング」や「家庭内の身近な物を使った防災グッズの作成・非常食調理」などを実践する。